

アオサギ観察会

2017年5月12日

ヒナたちの生存競争

5月も半ばとなり、毎日あちこちの巣で小さなヒナたちが誕生しています。これからは彼らの声が日増しに大きくなります賑やかになりますね。

ところで、巣の中で仲睦まじそうに見えるアオサギの兄弟ですが、それは見かけだけ。実際は兄弟同士で凄まじい生存競争を繰り返しています。親が餌を運んでくると彼らの態度は一変。弟、妹と餌を分け合って、などと考える奇特新兄、姉はいません。大きなヒナは小さなヒナを巣の端に追いやり、餌を独り占めしようとします。大きく強いヒナだけが生き延び

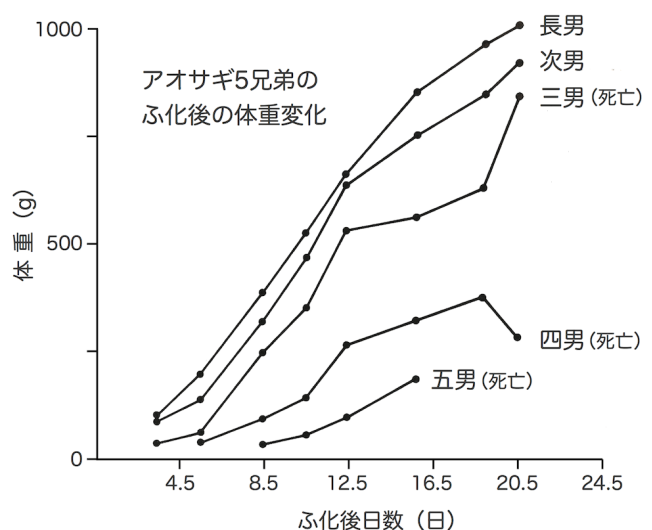


られる世界なのです。左の写真はとても極端な例ですが、1羽だけとても小さなヒナ（画面右下）がいます。これでは最初から勝負になりません。

何故こんなことになるのかというと、親鳥がほぼ2日に1卵のペースで卵を産むからなのです。このため兄弟の多い巣では長男と末っ子の誕生日に1週間もの差ができてしまいます。ヒナの成長は最初のうちはとても早いので、この1週間の差はとてつもなく大きいのです。

右のグラフはある5兄弟の孵化後の体重変化を表しています。すくすく育っているのは最初の2羽だけ。最後のヒナが生まれたときには兄弟はもうかなり大きくなっており、気の毒なことにこの末っ子は1週間ほどで亡くなっています。すぐ上の四男もなかなか成長できず間もなく死亡。ここの親鳥は十分に餌を獲れなかったのでしょう。残念ながら三男も最終的には巣立ちできなかったようです。

どこの巣でも多かれ少なかれ同じようなことが起こっています。5月、6月はヒナたちにとって最初の試練の時なのです。



(Owen, D.F. 1960. The nesting success of the heron *Ardea cinerea* in relation to the availability of food. Proceedings of the Zoological Society of London, 133: 597-617. の図を改変)